

研究主題について

1 研究主題

GIGA スクール環境で実現する学習者主体の学び

2 主題設定の理由

現代社会においては、ビッグデータの活用や AI といった技術革新により、産業のあらゆる分野で急激に変化し続けている。このような予測困難な時代にあって、児童一人一人が未来の創り手となるよう、私たちは、児童の資質・能力の育成に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することによる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に努めている。

GIGA スクール構想で一人1台端末の環境が整備され3年が経った今、児童の学びに大きな変革がもたらされている。児童自身が自分の学びを決定したり自分の学びを調整したりする「個別最適な学び」や、児童の学びが可視化されクラウドで共有されたり、児童同士や教師だけでなく多様な他者との協働により学びを深めたりする「協働的な学び」が、GIGA スクール環境を活用しながら一体的に行われている取組が、多く紹介されるようになってきたのである。

これまでも、児童生徒が主体的に学ぶ姿を求めて、様々な試みが行われてきた。ただ、学びの形態は教室で教師が児童生徒と行う一斉授業が主なものであった。しかし、GIGA 端末を児童生徒一人一人が活用することで、これまでの学校の学びにあった時間や空間などの制限が緩和されることになった。端末があれば、児童生徒が自分の学びの必要に応じて、時間にかかわらず、またどこにいても、自分の考えを発信することができたり、情報にアクセスすることができたり、学びの成果を共有することができたり、教師や友達だけでなく第三者とも関わるすることができたりする。そこに主体的な学びの可能性が大きく広がっていることを、多くの教師が日々の学習活動を通して実感しているのではないだろうか。

本部会の会員は、GIGA スクール環境について興味や関心があり、専門性を高めようとし、学校全体をリードすることにも意欲的に取り組もうとしている、または取り組んでいる仲間である。そこで、会員がそれぞれ現場で試行錯誤している、GIGA スクール環境でこそ実現される学習者主体の学びの実践を通して、その成果や課題を共有し、次の授業改善につなげるとともに、それぞれの学校で広げることができるような研究をしたいと考えた。

また、令和9年度宮城県で東北大会が予定されており、それに向けて実践を蓄積し研究を深めていくためにも、「学習者主体の学び」というテーマがふさわしいと考えたため、本大会の研究主題を「GIGA スクール環境で実現する学習者主体の学び」とすることにした。

「教える」ことは、私たち教師にとってライフワークともいえる重要な仕事であった。しかし、「学習者主体の学び」は、これまで前提としてきた「教える」という概念を根本から変える必要がある。本部会での実践や研究によって、会員の学びがより深まるだけでなく、宮城県の教師の、授業に対する意識改革につながっていくことを期待している。